

# 【漁村モデル：概要】

## 地域の再エネを活用した水素をFCFL、定置型FC、漁船へ供給

### 漁村モデル

漁業が営まれる漁村エリアを中心に  
水素を利活用するモデル

- 漁船やフォークリフトの脱炭素化の手段として、電動漁船や電動FLへの転換があるが、FC化して水素を活用した方が、**航続距離が長い・稼働できる時間が長い、充填時間が短い**といったメリットがあり、**特に大型や高頻度で稼働する場合の活用が有望**である。
- また、定置型FCは**熱と電気の両方を供給可能**で**総合効率が高く、熱需要が大きい施設での活用が有望**である。
- そこで、そのようなモビリティや施設がある地域では水素を活用することが有利であると考え、**漁船やFCFL、養殖施設等に設置した定置型FC**への供給を想定した水素利活用モデルについて検討し、取りまとめた。

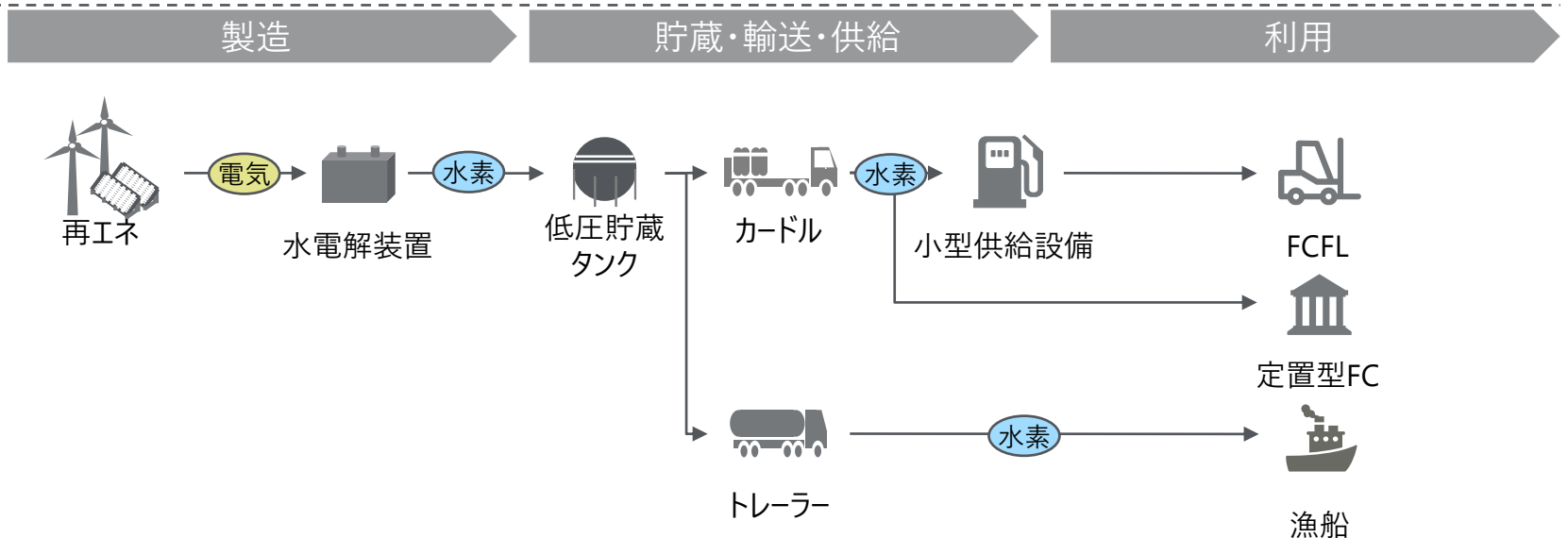
### プレイヤー例

- 製造～供給 : 再エネ発電事業者、ガス事業者
- 利用 : 地方公共団体、フォークリフト等を保有する漁港関係者、漁業家

### 事業化に向けた課題

- FC漁船の商用化
- モビリティ以外の熱電需要の創出（陸上養殖等）
- LPガス事業者との連携等、水素配送の体制構築

事業モデルの  
絵姿



# 【漁村モデル：実現シナリオ】

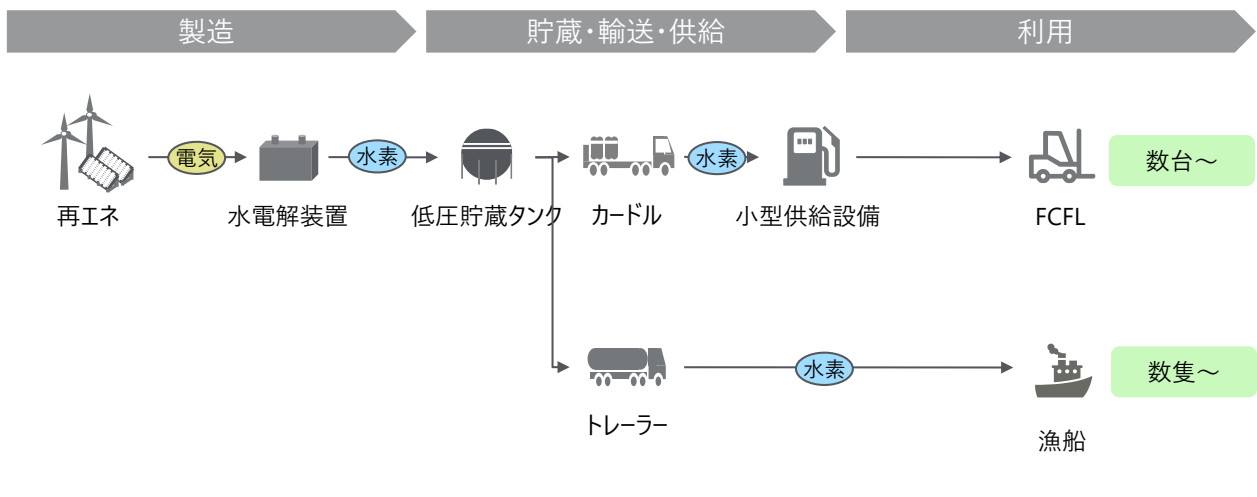
## 導入初期にFCFL、漁船へ供給するサプライチェーンの基盤を構築し、本格運用期においてカードルによる供給先を定置型FCにも広げて運用

導入初期  
(最初の5年間)

### 実現シナリオ

- 漁港の事業者と連携して小型漁船、FLに対する水素の供給体制を構築

### 絵姿



本格運用期  
(後続の10年間)

### 実現シナリオ

- 再生エネや水素設備のコスト低下に応じて、小型漁船のFC化の数を増やすことで需要を拡大し事業性を向上
- また、養殖施設や冷蔵施設等、熱電需要の大きな漁業施設に定置型FCを設置することで需要を拡大

### 絵姿

